

所 報

くしる

No.299

釧路教育研究所

令和 2年 3月



### 感謝を込めて

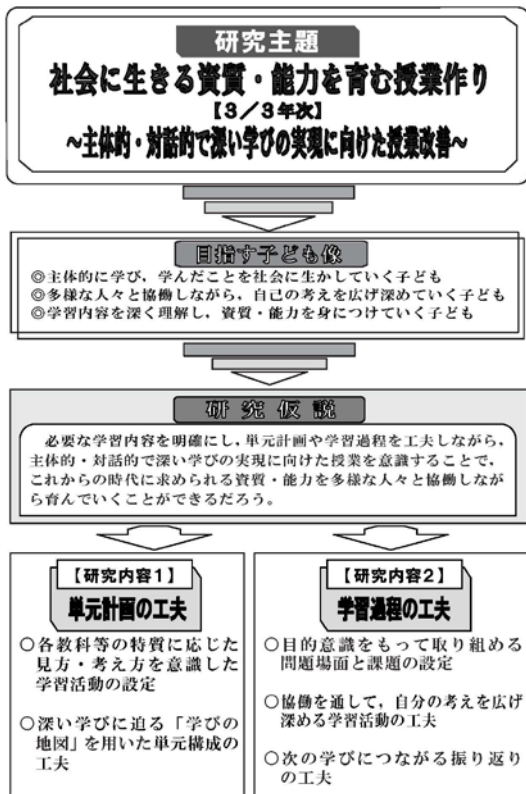
釧路教育研究所長 水 上 俊 司

授業を含めて学校で行う教育活動にすべてねらいや目標があります。そして、そのねらいや目標を達成するために手段や方法があります。そして、そのねらいや目標を達成しているかどうかで評価します。このことはすべての教師が理解していることです。とはいえ、たまに「方法」ばかりに目が奪われ「ねらい」を忘れてしまったり、「評価」にこだわりすぎて「目標」の達成を見失ったりしてしまうことがあるのも現実です。目標分析はきわめて重要であることを、自分自身戒めたいと思います。

かつてある教育学者は教育活動の目標を、「到達目標」「方向目標」「感動目標」の3つに分類しました。「到達目標」とは、主に知識や技能等の能力にかかわるもので、「～できる」という語尾になります。ここでの評価は「できたか」「できなかったか」（あるいは途中まではできている、なども考えられます。）「方向目標」とは、主に態度的側面が強く、「～しようとする」といったもの。こちら「しようとしているか」「いないか」で評価は可能です。最後の「感動目標」は上の2つとは1線を画しています。語尾は「～の喜びを味わう」「～の楽しさを味わう」などで、いわば情意の側面で捉えた目標です。多くの先生方が、体育大会や文化祭、学芸会等で「鳥肌がたった」「心が震えた」「一体感を感じた」。このような経験をしたと思います。勿論、このような経験は狙ってできるものではないにしろ、そういう経験もまた、子どもたちの成長には不可欠なものです。授業でも、知識・技能を定着させることに加えて、心が震えるような感動体験をさせたいと思うのは欲張りでしょうか。そしてその経験の積み重ねが「主体的に取り組む態度」につながっていくような気がしてなりません。

さて、今年度も皆様のご理解とご協力のおかげで、令和元年度の事業を計画的に推進することができました。ありがとうございました。学教研や道東所員研修会、講座等の事業を支えていただいた皆様に心から感謝申し上げます。次年度（令和2年度）におきましては、新たな研究主題のもと、管内のつながりを一層大切にし、皆様一人一人の期待に応える研究と事業の推進を目指して参ります。今後とも、どうぞよろしく申し上げます。

令和元年度 釧路教育研究所研究報告



今年度の研究部は、3年次計画の3年目として研究のまとめを中心に活動を行いました。昨年の反省で解釈が不明瞭であった「各教科の見方・考え方」について具体化し、所員による授業実践の中で検証を行いました。この1年間の取り組みをご報告させていただきます。紙面の都合上、一部のみ紹介します。

①単元計画の工夫【深い学びに迫る「学びの地図」

を用いた単元構成の工夫】の成果

所員により具体化した「各教科の見方・考え方」をもとに「学びの地図（構成図）」を改良しました。子どもたちが今までに身に付けた知識・技能、見方や考え方を基にスタートし、単元における深い学びへとどうつなげていくか、わかりやすくなりました。また、「学びの地図」の作成によって、子どもたちがどのような体験、知識・技能を手がかりとするのか、どのように見方・考え方を深めていくのか要点をつかむことができると共に、子どもの姿を具体的にイメージすることができ、ゴール

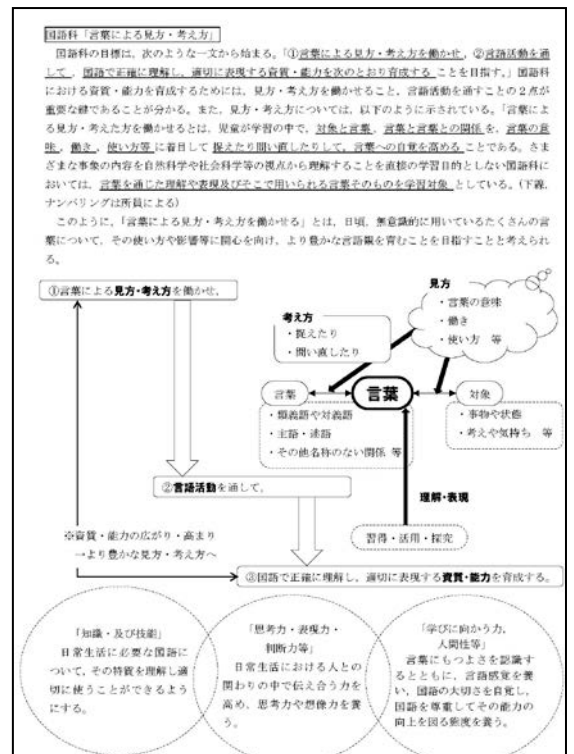
にたどりつくためのツールとして役立ちました。

このゴールに到達した時にこそ「深い学びとなった」と捉えられることを改めて所員一同、実感することができました。例として国語科の見方・考え方を紹介します。

②本研究を振り返って

- 全教科ではないものの、各教科の見方・考え方を図式化したことは、イメージをつかむ一助となりました。各教科の学びの地図を作成することで、教科ごとの違いや、共通する部分が見えてきました。
- 今年度検証した外国語を含めて、教科の特性によって、必ずしも単元ごとに系統的に見方・考え方が高まっていくのではなく、くり返し・螺旋的に指導を重ねていくことで、見方・考え方の高まりが期待できる教科もわかりました。単元レベルで構想するだけでなく、中期的・長期的に、育むべき各教科の見方・考え方を見通していくとより良い構想につながると感じられました。また、「学びの地図」と「単元計画」との差別化を図るために、学びの地図が「見方・考え方」とらえるためのツールであるという意識を強くもっていく必要があることがわかりました。

※令和元年度 釧研紀要第73集にまとめられていますので、ぜひご参照ください。



## 釧路講座報告 2 講座へのご参加、ありがとうございました

### 出前講座3 学校全体で支える特別支援教育 1月9日(木)

鶴居村研とのタイアップによる出前講座でした。インクルーシブ教育の捉え方の問題点から講座が始まりました。一つの範疇に子どもたちが収まっている(収めている)のではなく、境界ぎりぎりの内側・外側にちらばっている子どもたちをどのように支援していくのかという考え方が必要であると説いていました。また、子どもたちができないことを子どもたちのせいにするのではなく、「なぜなのか」「どのように支援したらできるのか」を、教師個々のレベルで収めるのではなく、学年・学校全体でしっかりと情報や考え方・支援の在り方を共有し、みんなで実践していくことが、チーム学校として取り組む特別支援教育になるのだと教わりました。



### 講座6 研究部による授業 7月2日(火)

鶴居村立幌呂中学校にて行われました。本研究所の研究主題「社会に生きる資質・能力を育む授業づくり～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～」に基づく研究部の木ノ内賢治所員による授業公開が行われました。授業は、中学1年生の数学「文字と式」の単元で行われ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた、単元計画や学習過程に工夫のある授業を提案されました。事後研の中で、授業や研究内容に対しての活発な意見交流がなされ今後の研究の深まりに繋がるものとなりました。

### 講座8 学校防災マニュアル～学校安全の中核となる教職員に～ 6月7日(金)

釧路工業高等専門学校にて行われました。内容は「地域の危険を知ろう」「教育機関としての学校の役割」「災害発生時の学校の役割」「防災における教育機関の役割」の4つです。釧路管内は地震だけでなく様々な被害を伴う災害があり、北海道胆振東部地震による大規模停電を経験し、よりタイムリーな話題を提供いただきました。最後はある場面を想定した災害イメージトレーニングを行うことにより、自校マニュアルについて再考することができる等、貴重な機会となりました。



### 講座9 ミニ道研①ICTを活用した授業づくり②小学校におけるプログラミング教育 6月21日(金)

釧路教育研究センターを会場に行われました。午前は『ICTを活用した授業づくり』について、ICT活用の目的や活用場面を具体的に考えたり、タブレットPCを用いて無料で活用できるアプリケーションを知ることができました。ICTを活用することで、子どもたちの学習に大きく役立つことを確認できました。午後は『小学校におけるプログラミング教育』について、プログラミングアプリケーション『Scratch』を実際に使い、プログラミングを体験するとともに、「プログラミングすることが大切なのではなく、プログラミング的思考に気づかせることが大切である」ことを学びました。

### 講座10 ミニ道研③実践から学ぼう!「授業づくり・学級経営」④道徳教育 8月2日(金)

今回は初任段階者を主とした遠隔研修ということで、日高管内とネットでつないで研修を行いました。午前は「実践から学ぼう!授業づくり・学級経営」をテーマに、基本的な指導技術や学習過程を確認しました。学級経営や授業づくりは、集団作りを前提に成り立っていることを押さえ、白糠中学校熊谷先生の実践発表を聞くことができました。午後は「道徳教育」をテーマに、道徳科の授業づくりにおける「解決したい課題」をキーワード化して演習をしました。参加者それぞれがもつ課題意識や、富原小学校續先生の実践発表を絡めて、今後の道徳教育について考えました。



## 講座11 要点はこれだけ！移行措置の外国語授業 6月17日（月）

浜中町立霧多布小学校にて行われました。内容は「I want to go to Italy（6年生の授業参観）」及び日頃の授業に役立つ教材等の紹介（新学習指導要領対応）の2つです。授業参観では、「行きたい国について紹介をする表現に慣れ親しむ」ことを目標に様々な活動がなされました。授業で大切にしていることや身につけて欲しい力など新学習指導要領完全実施にも対応できる様々な視点をいただきました。教材の提供も受講者が体験をすることで「楽しめ」そうだと実感をもつことができました。思考を鍛える内容もあり、充実した講座となりました。



## 講座12 プログラミング教育 ～授業を見てイメージを～ 12月6日（金）

小学校5年生の授業でした。授業ではキャラクターに「踊る」「ジャンプして1回転」させるなどレベル別に項目を設けていました。その結果、児童たちは意欲的に取り組み、夢中になってプログラミングを行っていました。授業の後半はペアでのプログラミングを説明し合っ、評価を行い、児童たちは達成感を得られていました。授業後の研修では、本教材の利点、児童の実態を把握した中での活用などの説明がありました。また、パソコンだけでなく、タブレットなどではどのようなソフトがあるのかについても教えていただきました。

## 講座13 誰でもできる！書写指導 7月1日（月）

書写の講座が厚岸中学校で行われました。厚岸中学校の守屋教諭が講師として授業公開、実技講座を行っていただきました。考えて書く書写の授業が展開され、実技講座も充実したものとなりました。また、普段の書写の授業における悩みや指導方法も交流でき、満足度の高い講座になりました。



## 令和2年度の釧研講座について

**NEW!!**

以下の「管内研修センター等連携」研修講座（ミニ道研）の2つのみになります。

(1) 令和2年 6月 5日（金）【会場】釧路教育研究センター【時間】10:00～15:30

【内容】 午前～小・中学校におけるプログラミング教育

午後～学習指導要領改訂を踏まえた学習評価

※釧路単独開催です。他管内と結ぶ遠隔研修ではありません。

(2) 令和2年 8月 3日（月）【会場】釧路教育局【時間】10:00～15:30

【内容】 午前～授業づくりの基礎（指導方法、評価等）

午後～生徒指導の機能を生かした学級経営

※日高管内とネットで結ぶ遠隔研修です。

(1)(2)ともに小中学校の経験の浅い教諭が対象となりますが、経験年数を問わず受講可能です。新年度になりましたら詳しいご案内を申し上げます。多数のご参加をよろしくお願いいたします。

## 事務局通信

■この原稿を書いている3月2日現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休校措置が、北海道のみならず全国でも同様に行われることとなり、連日、大きなニュースとして取り上げられています。しかし、学校に足を運ぶと、子どもたちの声は当然のことながら聞こえてきません。緊急事態宣言下、町中でも子どもたちを見かけることはありません。静まりかえった学校を目にすると、子どもあつての学校なのだと、つくづく実感します。1日も早く子どもたちの元気な姿を見たいと願う今日この頃です。■釧研所報も今年度の最終号となりました。各学校では、年度末・年度始業務のみならず新型コロナウイルス感染症への対応に、お忙しい毎日をお過ごしのことと思います。しかし、新年度に向けて新たな希望が生まれるのは、子どもだけではなく私たちも同じではないでしょうか。新たな1年に向けてこの難局を互いに励まし合いながら、乗り切っていきましょう。どうか次年度も釧路教育研究所をよろしくお願いいたします。（事務局）

★釧路教育研究所★ 所報299号

発行日：令和2年 3月

発行所：釧路教育研究所

発行者： 水上 俊司

URL

<http://senken.net/>

E-mail

[info@senken.net](mailto:info@senken.net)

アクセス用QRコード

